

# ハワイ旅行記 '07

～ USMLE受験 + ハワイ大学見学 ～

はじめに

・ USMLE 受験編

準備

試験

・ ハワイ大学見学編

あとがき



## はじめに

私たちは6年生3人組で、9月からずっといっしょに勉強してきた仲間です。2月の国家試験後、3月13日から20日までハワイに行ってUSMLEのstep1、step2 CKを受験し、ハワイ大学医学部を訪問してきました。とても楽しく感動の多い卒業旅行だったので、この体験をハワイ旅行記としてまとめました。ぜひ後輩の皆さんに読んでいただき、参考にいただければと思います。

この旅行記は、 . USMLE 受験編と、 . ハワイ大学訪問編の2章構成となっています。

. USMLE 受験編は、私たち3人がstep1、step2 CKを受験するにあたって、半年間どのように準備をしてきたかを記しました。これからUSMLE受験を考えている後輩の皆さんのお役に立てればと思います。勉強方法から受験申し込みの方法、役に立つサイトなど、私たちが受験するときに「こんな受験ガイドがあったらよかったな」と思うようなことから、 章にはかなり詳細に書き留めたつもりです。

. ハワイ大学訪問編は、ハワイ大学の鈴木光明先生、はしもと小児科クリニックの橋本剛太郎先生から大変貴重な機会をいただきハワイ大学医学部を見学させていただいた際に、私たちが驚いたことや感じたことを綴りました。日本以外の医学教育事情をよく知らなかった私たちは、非常に合理的なハワイ大学の医学教育システムにカルチャーショックを受けました。福井大学で過ごした6年間は間違いなく素晴らしいものでしたが、少しだけハワイ大学の学生を羨ましく思う気持ちもあります。6年生の最後にハワイ大学を訪問した私たちは、もう少し早くこのような体験をしていれば、多少無理をしてでも学生のうちに留学していたのに、という気持ちになりました。そのショックと後悔の気持ちを後輩の皆さんに伝えたいという思いと、ハワイ大学見学の機会を与えてくださった鈴木先生と橋本先生への感謝の気持ちをこめて 章を作成しました。

## . USMLE ( step1 & step2 CK ) 受験編

### 準備

私たちの USMLE 受験動機は

9月から半年も自由に使える時間が与えられているのだから、とりあえず何かに挑戦してみたい！

勉強のツールとしての英語力を磨きたい！！

臨床留学等将来の選択肢を広げておきたい！！！！

この3つでした。「 年後にアメリカでレジデンシーに応募したい」というような具体的な目標もないまま勢いだけで挑戦してしまった感じです。レジデントとしてアメリカの研修病院にアプライするなら高得点を狙わないと意味がないとか、そのような難しいことはあまり深刻に考えずにとりあえずチャレンジしてみようということととにかく勉強を始めました。

しかしいざ準備を始めてみると困ったときの対処法が見つからず、テキストの選別と勉強法から申し込みと受験まで色々とつまずいて困ることがありました。受験ガイドに載っていなかったり、思いもよらないトラブルに見舞われたりと、なんだかんだと振り回されてしまいました。

そこで、私たちが苦労したポイントとその対処法 & 受験を終えてようやくわかった USMLE 全体像お話ししたいと思います。

### 1. 申し込み

申し込み方法は変化するらしいので、実際に申し込みをされる場合には多少異なる点も出てくるかもしれません。あくまで現時点でのものです。

)概観

まず on line で必要情報の記入と入金を済ませ、次いで確認書の発送をします。

受理されれば、自分で試験会場の予約をすることになります。

)on line

一番はじめにしなければならないことは ECFMG への登録です。

これは、自分の ID・住所・連絡先・大学名を打ち込むだけの非常に簡単なものなので困ることはないと思います。この部分は後から OASIS というサイトにて閲覧と変更が可能です。

登録ができれば on line で USMLE 受験の申し込みです。これが一番の山であり、受理されるかどうかはこの成否にかかっています。『reject を 5 回も受けてしまったっ！！』なんて悲惨な体験話を実際に聞いていますが、次のポイントを参考にいただければそれほどでもなくなると思います。

以下、項目別に対処法をお示しします。

- ・まず、該当記入のない項目(Item)は無記入で大丈夫です。

私たちの場合(非学士入学の6年生)

Item5・・・examination with documented disabilities

Item6・・・other examination history and applicant numbers

Item10・・・U.S.social security number and/or national identification number

Item18-21(ただし、item17については下記をみてください)

- ・ on line での申し込み記載情報に修正をしたい場合は、一度破棄して再度作成し直す形(override)になります。不受理(reject)の場合も同様です。

簡単にできるので恐れる必要はありません。

- ・ Item3・・・eligibility period

受験期間の設定ですが、ここが一番大事です。

勉強のペースと reject される可能性を考慮して、思い立ったら真っ先に済ませておきましょう。その方がモチベーションもぐっと上がると思います。

ポイントをまとめます。

- ・ 1年くらい前から設定可能

- ・ 3ヶ月で1単位

ですが、1年のうち12個の中から選択可能なので不自由はありません。

- ・ 締切りは2ヶ月前の月末日

07年3月1日～5月31日を希望するのであれば、確認書類発送も合わせての申し込み完了締切りが、07年1月31日になります。

- ・ Item17・・・medical school that conferred/will confer your degree

ここでは大学の住所・入学と卒業年月日を記入します。

問題は後半にある dates of attendance の title of medical degree というところです。色々な書き方があるようですが、私たちは『Igaku(Bachelor of Medicine)』として受理されました。(多くの受験生がこう記入しているようです)

さらに最後の internship についてですが、学生であれば研修がまだのはずなので No にクリックするだけでOKです。しかし、親切心から研修予定期間をその下の期間の欄に記入してしまうと、次のページへの切り替わりの際に勝手に Yes になってしまいます。No をクリックするだけにしましょう。

- ・ Item20・・・clinical clerkships

いわゆるポリクリ(大学病院内・外の病棟実習)とは別ものです。06年度現在ではカリキュラムにポリクリは入っていませんでしたので、無記入でスルーしました。1週間の病院見学などが含まれるのかどうかは確認していません。

- ・ 入金

on line での申し込みの最後に、クレジットカードでの入金手続きがあります。これを済ませなければ次(確認書類の発送)に進めません。クレジットカードでしか入金でき

ないので、持っていない方はカードを作る必要があります。

受験料は step1 と step2 CK の 1 つにつき \$ 695 ( 85,000 円 ! ) でした。

さらに、アメリカ・カナダ以外の国で受験する際には別途に必要な経費が発生します。

日本はその費用がもっとも高く、\$ 300 ( 35,000 円 ) ほどだったと思います。

学科試験である step1 と step2 CK の両方をあわせると日本受験時にかかる別料金だけでも \$ 600 になります。そこで！ハワイで受験するとその金額を旅行代金に充填できると考え、このダブル受験という無謀な挑戦につながった訳です。

私たちは先に挙げた動機と雰囲気があったので、この作戦でもよかったのですが、レジデンシーへの apply 等を考えて高得点を狙う人は絶対にやめた方がよいです。個々の準備期間をきっちり設けるべきです。

- ・ 確認書のダウンロード

入金を済ませたらダウンロードができるので、これを手にしたら on line パートは終了です。

) 確認書 ( certification statement ) の発送

- ・ 名前と日付を記入

- ・ 写真を貼る

- ・ 学生課にお願いして、大学のサイン・押印・学部長のサインをもらう

学生課は慣れているので問題なく処理していただけます。

- ・ 発送

) その後

1 ~ 2 週間後には OASIS というサイトにて、書類が受理されたかがわかります。

- ・ 不受理の場合

OASIS で不受理を確認次第、原因を確認し新たに発送の準備をしなければなりません。

入金後でも on line 申し込みの override ( やり直し ) ができるので、作成し直しです。

- ・ 受理の場合

手続きがすべて終了すると、USMLE の練習用 CD-ROM が届きます。中には本番のものと同じチュートリアルと問題 3 ブロックずつが入っています。

パソコンによって、まったく見られない場合や画像がでてこない場合があります。

チュートリアル

試験に関する注意事項です。もちろんすべて英語なので、本番でいきなり全部確認しようとする大変かもしれません。マウスのクリックの方法から始まりうんざりしますが、中には画像のコントラスト、休憩のとり方などの必須情報が含まれていますので、あらかじめ熟読しておきましょう。

問題 3 ブロック

本番と同じ形式で、60 分 50 問を 1 ブロックとして、それが 3 セット入っています。

プール問題のようなので、しっかり解いておくといいいことがあるかもしれません。

私も数問ほど CD-ROM から出題がありました。

)試験会場について

・予約

Prometric という専門会社のサイトから on line で予約可能です。シートに空きがあれば、期間内の平日であればいつでも受験可能になっています。ただ、別種の試験も同じ会場であるため、長期休みの間は満席になることがあるようです。そのため、これも早めの予約をおすすめします。

ハワイ会場の on line 予約の際、ログインする度に試験会場候補地のハワイがあつたりなかったり、ハワイを選べたけれど次は土曜日の予約ができたりできなかったりと、摩訶不思議なことが起こりました。原因がさっぱり不明なため注意の仕様が無いのですが、根気よくトライしてみてください。

・受験票のダウンロード

試験会場へ行くときに忘れないようにしましょう。この受験票 1 枚と身分証明書 (パスポート) があれば試験を受けられます。

## 2. 勉強

勉強会と自主学習の 2 本立てで進めましたので、それぞれ別に記したいと思います。

)勉強会

- ・ 9 月 ~ 10 月      ・ ・ ・ first aid ( step1 ) の輪読  
全体像を把握するため、じっくり読み進めました。  
並行して、Lange Q & A USMLE step1 ( 以下 Lange ) の解剖・生理の問題をゆっくり解き始めました。
- ・ 11 月              ・ ・ ・ Lange ( step1 ) 生化学の問題演習  
問題を分担し、調べる作業を割り振りすることで、時間を 3 分の 1 に減らしました。
- ・ 12 月              ・ ・ ・ Boards & Review : Behavioral science  
テキストを読み、章末問題を解きました。  
Step2 CK の精神科領域とも範囲が重なるので、徹底して読み込まれることをおすすめします。
- ・ 1 月 ~ 国試まで    ・ ・ ・ Kaplan Q book step2 CK ( 以下 Kaplan )  
60 分 50 問の本番形式で解き、その後、答え合わせと気になるところのディスカッションをしました。
- ・ 国家試験後 ~      ・ ・ ・ Kaplan ( step1 )、NMS Review for USMLE step1 ( 以下 NMS )、NMS ( step2 CK )  
こちらも、テスト形式で解きました。

はじめに first aid の輪読をしたことは非常によかったと思います。ひとりだと読み進めることは苦痛ですが、3人で足踏みそろえてディスカッションしながら読む場合には、first aidに含まれる情報量の凄さとその行間をより把握しやすくなります。

読んだだけで頭に入るわけではありませんが、全体像を捉えるため&復習のツールとして欠かせません。

演習に、私たちは3社(Lange、Kaplan、NMS)の総合問題集を使いました。

- ・Lange (step1) . . . 問題が細かいです。はじめにもってくるべきではありません。余裕のある人がさらなる飛躍のために用いられるのが良いのではないのでしょうか。
- ・Kaplan (step1) . . . must have & do です。本番の難易度に近く、解説も読みやすいです。もっとも学習能率のよい本でした。科目別に分かれています、テスト形式です。
- ・NMS (step1) . . . 問題、解説ともにやや易しめになっています。科目ごちゃまぜのテスト形式なので、はじめに使うと良いかもしれません。
- ・Kaplan (step2 CK) . . . 同じく must have & do です。
- ・NMS (step2 CK) . . . 改訂されて新しくなったものだったからかもしれませんが、step1用のものと打って変わって全体的にスリムでした。良かったです。

私たちはすべて紙で勉強しましたが、多くの受験生は on line でも学習するようです。実際のところ紙上での学習と本番のテストとのギャップに苦労することはありませんでしたが、興味のある方は申し込んでみてください。

#### )自習

勉強会とは別に、各自で取り組んでよかったものをまとめてみます。

- ・解剖学講義(南山堂)  
臨床に関係のある、つまりは USMLE 出題の的となる項目が青字でまとめてあり、解剖と整形外科をリンクさせるのに有用だと思います。サクサク読めます。特に整形の範囲は英単語が大変なので、まずは日本語で復習してみるのもよいです。
- ・Lippincott 's Illustrated Review : Biochemistry  
図表と問題を見ていくだけで、生化学のおおよそを射止めることができます。
- ・Katzung & Trevor 's pharmacology Examination & Boards Review  
カッツングのまとめ&問題集です。ボリューム満点のあまり、抗菌薬の章などは細かすぎたりしますが、便利な図や表が満載なのでさくっと目を通しておくと、step1 と step2 CK の両方で薬に困ることはなくなります。
- ・Boards & Review : Microbiology & Immunology の章末問題

簡単な問題とマニアックな問題が入り混じり困惑しますが、特有の感染症や免疫の分子作用などの復習のきっかけには良いと思います。

)総括・反省

・ step1

どこかで聞いた『first aidには始まり first aidに終わる』という言葉の重みを実感しています。段取りとして、

全体像の把握

問題演習

復習

という当たり前のことができれば問題ないのだらうと思います。ただ、範囲が膨大なのでつつい道はずれがちです。first aidを絶対の道しるべとして進めるかどうか、やる気と効率を左右します。困ったときは、

・ first aidにのってないから・・・まいつか

・ first aidにのってるから・・・踏ん張ってみるか

のギアチェンジが最適です。

次いで問題演習ですが、恐れずにははじめから本番形式の60分50問のペースで解くことをお勧めします。一気に問題を解いてしまうと解説を読む負担も大きくなるので、はじめのうちは潰れそうになるかもしれませんが、結局は取舍選択が働いて効率が上がります。はじめに与える負荷は大きすぎでは問題ですが、なるべく大きなものにするのも重要なのではないのでしょうか。

最後の復習のツールとして、私たちはノートを準備しました。最後の段階で短期間に見直すにはやはり日本語の方が頭に入りやすいと思ったからです。解答解説ディスカッションのときに書記担当を割り当て、知らなかったり忘れていたりする英単語やキーワードから症例までとにかく何でも書くようにしました。これはなかなか気に入っていて、直前にみんなが眺めていたのはこのノートでした。勉強会で進めるのであれば、思いも詰まっていくので良いと思います。今では宝物です。

英語に自信のある方にとっては、やはり first aid がそのまま復習ノートになるでしょう。

最後に受験時期についてです。これまで色々な段階で受験を試み勉強を始めてみましたが、手をつけてはみるものの、いずれも3日と続きませんでした。臨床のバックグラウンドがないのとあるのとでは進めやすさが全く異なりますが、学生生活の最後の最後で受験にこぎつけた満足感はなかなかのものでした。step 1は基礎からの出題といえども臨床の知識があったほうが断然有利なので、ある程度の高学年で受験したほうが高得点は狙いやすいと思います。

・ step2 CK

国家試験とかぶる内容が多いので、国試前後に受ける人が多いみたいです。範囲は同じですが、診断基準やマネージメントが異なりますので、しっかりとした準備は必要だ

と痛感しました。特によく言われるのが産婦と精神科です。私たちの試験では産婦人科があまり出なかったのでよくわかりません。ですが精神科に関しては、Boards & Review : Behavioral science でかなりカバーできると思います。

ということで、国試の準備と並行して、問題演習をたくさんしていただくだけでそれなりに攻められるのではないのでしょうか。

#### ・最後に

いろいろ書きましたが、私たちが思う must have & do をまとめます。

- ・ First aid (step1)
- ・ Kaplan Q book (step1 & 2 CK)
- ・ NMS Review for USMLE step2 CK
- ・ Boards & Review : Behavioral science
- ・ Katzung & Trevor 's pharmacology Examination & Boards Review
- ・ Lippincott 's Illustrated Review : Biochemistry
- ・ 解剖学講義 (南山堂)

on line でも情報が得られます。他にもありましたが、私たちが特に参考にしたものを紹介して準備編を終わりにしたいと思います。

- ・ mixi の USMLE に関するコミュニティ
- ・ USMLE forum

世界中の受験者がアクセスする面白いサイトです。試験を受けた方の報告や感想 nadv もあるので、要チェックです。

## 試験

#### ・会場

場所はハワイ・オアフ島の Bishop street 1032 のビル内にあります。アロハタワーから徒歩 10 分ほど、ワイキキからでもタクシーで約 15 分 ( \$ 13 ほど ) で行くことができます。必要なものは受験票一枚と身分証明書 ( パスポート ) です。食事は会場に持ち込みでき、試験室外のイスで食べることができます。下の階には売店、コーヒーショップがあるので、そこで買うこともできます。休憩は基本的には 45 分ですが、最初のチュートリアル ( 解答にあたっての注意事項等の説明 ) の 15 分間は余った時間を休憩時間に加えることができます。チュートリアルは送られる CD-ROM と同じですので、前日までによく読んでおけば早く終わらせることができれば休憩は 1 時間弱あるということになります。この時間には昼食時間も含まれ、自分でブロック間の休憩を自由に調節できます。

## ・雰囲気

外国であることのハンディは全く感じられませんでした。少々会場は寒かったですが、快適でした。試験会場内へ持ち込めるのは自分の身分証明書（パスポート）と会場でメモ用に貸してもらえる3枚のシート（ペンで書いて、消せる）のみです。目薬、ヘアピン等は許可されず、机の上には他のものは何も置けません。耳栓の代わりにヘッドホンが備え付けてあります。同じ会場内では TOEIC などの試験も同時に行われていますが、ヒアリング試験も気になることはなく、静かでした。ただ、ライティングのタイプ音だけが気にはなりましたが。

## ・試験問題について

前提としては、ストック問題からの CBT ですので一人一人の問題は異なります。その上で私たちの感じたことを記すと

step1 ……臨床に即した問題が多く出た気がしました。マニアックな内容の問題が1割、即答できる問題が1割くらいでした。医療患者関係（behavioral 関連）の問題が多く出ました。

Step2 CK……郵送された CD-ROM より難でした。精神科からの出題が3人に共通して多く、診断基準からしっかり押えておく必要性を感じました。また、感染症（AIDS、日本では希なもの）からも出題が多々ありました。マネージメントはどれか？というタイプの問いが多かったです。

## ・感想

step1、step2 CK と共通して、診断はできてもマネージメントが分からないものも多く、考えてしまうと時間がなくなるという状態でした。特に CK では時間に余裕が全くありませんでした。予め配布された CD-ROM 中のものと良く似た出題もあり、CD-ROM は全てやることをお勧めします。On-line で勉強している人もいますが、私たちにとっては初めてパソコンと7~8時間も向き合ったので途中から辛くなりました。

また、私たちはハワイに着いて2日目に step1 を、4日目に step2 CK を受験しましたが、時差ボケが少し残ってしまって辛かったです。また、試験を1つ受けるだけでかなり疲れるので、やはり step1 と step2 CK は同時期に受験しない方がよいと思います。（当初の予定では、私たちも1月に step1 を、3月に step2 CK を受験する予定でしたが、1月の step1 の申し込みが間に合わず、やむをえず2つ同時期に受験しました）

## ハワイ大学訪問編

ハワイ大学に行ってみたい！と思ったそもそものきっかけは、同級生の栗津さんのレポート（福井大学医学部のホームページのコラム <http://www1.fukui-med.ac.jp/home/ufms/index.html> から閲覧できます）中にあった、「ハワイ大学の医学生は1日12時間勉強する」（！！）という衝撃的な一文でした。「そんな大学、本当にあるの？あるなら一度、この目で見てみたい」という単純な理由で、実習でお世話になったはしもと小児科クリニックの橋本剛太郎先生に相談にのっていただき、ハワイ大学の鈴木光明先生を紹介していただきました。

鈴木先生には、ハワイ大学の教育システムについて詳しく教えていただきました。鈴木先生からお話をうかがううち、ハワイ大学の合理的で実践的な教育システムに驚くとともに、なぜハワイ大学の学生が1日12時間も勉強できるのか、その謎が解けたような気がしました。ハワイ大学の教育にかける情熱が、学生のモチベーションを維持させている最大の理由に違いないと思うのです。私たちがビックリ仰天したハワイ大学の教育システムは、たとえば以下のようなことです。

### ここがすごいで、ハワイ大学！

PBL (Problem Based Learning) に重きをおいた教育は、ハワイ大学の教育システムの大きな特徴です。

PBLの詳細については栗津さんのレポートを参照してほしいのですが(とてもわかりやすく書かれています)、1グループ5人程で、

Step 1 : 症例についてのグループディスカッション (1.5時間)

Step 2 : 分担範囲の自主学习 (授業時間外で各自)

Step 3 : Step 2 で学習したことをグループ内で発表し、討論する (1.5時間)

という流れで学習が進んでいきます。

学生はPBLに大変積極的で、PBLがカリキュラムの大部分を占め、講義は週に6時間ほど(月曜と水曜の午前中のみ)だそうです。補習のような形でUSMLE対策の講義も行われるようですが、講義がカリキュラムのほとんどを占める日本と比べると、講義時間の少なさに驚いてしまいます。

PBLについての学生の評価は、指導教官と学生が1対1で実際にPBLを行うことで評価されます。この試験は教官側の負担が大きく大変だそうです、それでもこのような試験を行うハワイ大学の教官の熱意に、大変ころをうたれました。

診察技術の習得方法についても、整った設備に圧倒されてしまいました。

日本では形ばかり？のOSCEですが、ハワイ大学ではボランティアの模擬患者約300人がおり、採点のためのビデオカメラがついた12の模擬診察室で本格的に行われます。学生の診

察は DVD に録画され、採点する先生がいつでも何回でも再生することができます。PBL にしても OSCE にしても、教官側にかかる負担がとても大きいことは想像がつきます。先生の空いた時間に採点ができるこのようなシステムは、教官側の負担軽減にもなっています。減らせる負担は減らず、そのための経済的投資は惜しまない、という地味ながら合理的な工夫の積みかさねが、質の高い教育を支えていると感じました。



OSCE の練習をする部屋



模擬診察室（録画・録音できます）



診察後、カルテを書く部屋



録画した映像を見ることができます

週 1 回、実際の患者を診察します。

これにも大変驚きました。週 1 回、1 人の患者さんについて 30 分～ 1 時間の時間(長い!)が与えられ、実際に問診と診察を行い治療方針の計画をたてます。もちろん、診察終了後に指導医からのフィードバックがあります。卒業までの 4 年間でおよそ 500 人!の患者を診察することができます。ちりも積もれば…すごい経験値ですね!

これらの教育が入学直後から行われます。

全員の学生が一度大学を卒業しているからこそできることなのでしょうが、試験を突破してモチベーションの高いうちにこのように質の高い専門教育が受けられることも、学生のモチベーション維持に一役買っていると思います。

ハワイ大学の医学教育はとにかく実践的で、日本との違いにカルチャーショックを受けました。

このような優れた教育システムを持つハワイ大学は全米でも評価が大変高く、マッチン

グの際にも有利で入学試験の倍率は40倍（62人の定員に対して2000人が応募）だそうです。私たちがハワイ大学を訪問した日はちょうど Matching Day と呼ばれる研修病院の決定日で、レイ（ハワイの花飾り）を身につけた学生がロビーに集まり、歓声を上げたり友人たちと記念写真を撮ったりしてお祝いをしていました。私たちの Matching Day はひっそりしていましたが、ハワイ大学の学生たちの異様な？盛り上がり方から、学生にとってのマッチングは私たちとは比較にならないくらい熾烈な戦いで、懸ける思いも特別であることを痛感しました。

PBL にせよ OSCE にせよ、ハワイ大学は教育に関して、ソフト面でもハード面でも莫大な投資をしています。設備は素晴らしいし、時には休日を返上して教育にあたる先生方の熱意に、学生も心を動かされて勉学に励むのではないのでしょうか。もちろん、福井大学にもそのような教育熱心な先生方はいらっしゃいますが、大学全体で情熱を持って教育するという姿勢がハワイ大学にはあり、それが見学していてとても気持ちがよかったです。残念ながら私たちはもう学生でなくなってしまいますが、是非ともハワイ大学で学ぶチャンスを得てこの雰囲気の中で勉強してみたいと思いました。ハワイ大学では、年に2回学生向けのセミナーが開催されるそうですから、後輩の皆さんには、ぜひともそのようなチャンスを生かしてハワイ大学の教官と学生の教え教わる熱気を肌で感じてきてほしいと思います。

ただ、強調しておきたいのですが、確かにハワイ大学は本当にとっても素敵な大学でしたが、福井大学で過ごした6年間も同じくらいすばらしかったです。情熱を持って教えてくださった先生はたくさんいらっしゃいましたし、図書館やチュートリアル室など24時間365日不自由なく勉強できる環境が整っていて思う存分勉強に打ち込むことができました。1日12時間の勉強まではできなかったものの、大学入学までそこそこ勉強に力を入れた生活を送ってきた日本の医学生にとって、勉強以外の何かに打ち込んだという経験は、それぞれ大学のときにしか経験できない貴重な財産だと思います。不足の勉強時間はこれからの医師生活でいくらかでも挽回可能であると信じて、胸を張って福井大学を卒業したいと思います！



ハワイ大学にて鈴木先生と



橋本先生宅にて

## あとがき

卒業試験からハワイに行くまでの半年間、私たち3人はチュートリアル室12にこもりつきりでした。

ここまで最後の勉強に打ち込めたのは、私たちのハワイ大学訪問を快く受け入れてくださったハワイ大学の鈴木光明先生、橋本剛太郎先生をはじめ、ハワイでのUSMLE受験を勧めてくださった関東中央病院の林啓一先生、入学試験等の特別な行事中もチュートリアル室を借りられるよう骨を折ってくださった学生課の山本さんと朝日さん、夜中のパトロール中に励ましてくれた警備員の方々、頻りに声をかけてくださったチュートリアル室両隣の解剖学教室の先生方、差し入れをもってきてくれた友人など、多くの方々のおかげです。

この福井大学にあって、何かに打ち込もうとするときには、たくさんの人が支えてくださいます。思い立ったらそれをそのままエネルギーにして、遠慮せずに周囲に助けを求めましょう。きっと想像以上に私たち学生のチャレンジを歓迎してくださいます。恩は、後で返せばいいのです。いまある環境に存分に甘えて、やりたいことをやりきりましょう！

私たちはあつという間に後輩のみなさんを支える側になってしまいました。私たちの先生方が私たちにそうしてくれたように、これから後輩のみなさんへの協力は惜しみません。気軽に連絡をくださいね。

お互い、がんばっていきましょい！



福井大学医学部医学科第22期卒業生

鈴木明子（東京都立府中病院）

akikos@fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp

東野芳史（福井大学医学部附属病院）maruhiga@fmsrsa.fukui-med.ac.jp

藤野文孝（総合病院国保旭中央病院）fumitako70@gmail.com